

高麗郡建郡1300年へ 記念行事 目白押し

奈良時代の716年に武蔵国の高麗郡が置かれてから、来年5月で1300年を迎える。ゆかりの日高市や飯能市を中心に、今年から来年にかけて古代衣装行列や歴史シンポジウムなどの記念行事が目白押しだ。イベントも今春から始まっており、祝賀ムードが高まっている。

シンポや古代衣装行列

高麗郡は武蔵国の1郡として、今の日高市と飯能市にまたがる地域に置かれた。朝廷は初代の郡司(首長)に朝鮮半島の高句麗から日本に渡来した高麗王君光を派遣。駿河国(現在の静岡県)の東部から中部)や常陸国(現在の茨城県)の大部分)など、東国7国に散らばっていた高句麗人1799人を高麗郡に集めた。

中世以降、高麗郡は現在の鶴ヶ島、川越、入間、狭山各市の一部まで拡大し、1896(明治29)年の郡制施行で人間郡に編入されるまで存在した。

しかし、今では地元でも

「高麗郡」を知らない人も多い。若光をまつる高麗神社の高麗登雄宮司(故人)が20年ほど前に1300年事業を提案。現在の高麗文康宮司が遺志を継ぎ、2010年に準備会を設置。周辺8市3町の市民や政財界関係者らが一般社団法人「高麗1300」(大野松茂理事長)を結成した。

イベントも着々と進む。14日に日高市で「渡来人の里フォーラム」が開催されるほか、今月からは同市にキャンパスのある埼玉女子短大で「高麗郡1300年大学」が来年2月まで計5回開講される。7月5日には「公開歴史講演会

今年4月にあつた、市民が古代衣装で行列する「にじのパレード」



「高麗郡建郡と東アジアの交流」がある。

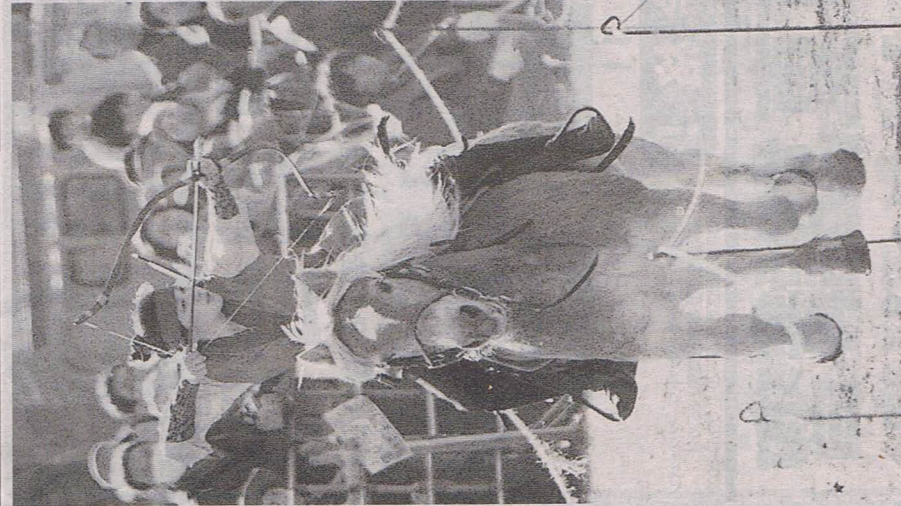
また、今年と来年の11月には、日高市内で「高麗王杯馬射戯」競技大会が開かれる。高句麗時代の徳興里壁画古墳(北朝鮮)に描かれた「馬射戯図」に由来する武芸訓練の一つで、走る馬上から大中小の的を射る、日本の流鏑馬などにも似た競技だ。馬射戯の会場

では市場や屋台が並び、韓国伝統芸能やよさこい競演、音楽ライブなども披露される。

本番となる来年の記念行事も目白押し。5月に1799人の市民による古代衣装行列「にじのパレード」、12月の「建郡1300年歴史シンポジウム」などがあるほか、ゆかりの史跡を巡るハイキングコース選定や高麗郡ガイドブック発行、案内板の設置、県内外の高麗王ゆかりの地と連携した企画も検討されている。

大野理事長は「先人たちの労苦に感謝し、新しい時代に向かって地域が盛り上がり、みんなが豊かで元気になるよう、『1300年』を永続的な地域づくりを展開するきっかけにしたい」と話している。

(大野和明)



駆けける馬上からの的を射る「馬射戯」
=いずれも「高麗1300」提供



浦高OBレガッタ対決

